

日刊 動力車労働千葉

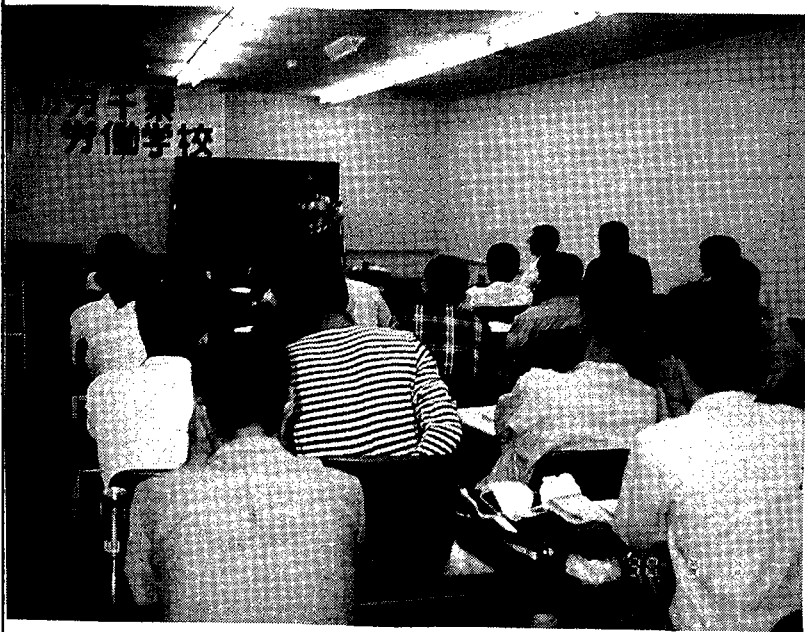
民衆主体(民権)の民主主義形成よ!

☆中東情勢には全ての問題が凝縮している!

動労千葉第IV期第四回労働学校は、三〇名を越す組合員の参加のもとに、九月八日千葉県労働者福祉センターにおいて、山川先生をお迎えし、「最近の世界情勢」とくに軍事の側面」をテーマに開催された。

講座は、米ソ超大国を中心とする「デタント」緊張緩和・軍縮」の持つ真の意味と、イラクのクウェート進攻を一角とした現在の世界情勢を白日の下にさらし、より具体的な、より明確な、そして情勢の把握を目で見る事ができる有意義なものであった。

ここでは山川先生の講義を圧縮した形で報告したいと考えます。



①イラクのクウェート進攻をどう見るのか?
世界の文脈の中でどう進んでいるのかを捉えなければならぬ。

情勢は、八月二日にイラクがクウェートに進攻してから急速すぎる程の展開をみせている。

政府・自民党は「中東は我が国の生命線」、国際的義務を果たさなければならぬ」として、自衛隊の海外派遣・国連平和協力法の制定や自衛隊法に於いて実質改憲から憲法改定へと向かっている。

②そこで多国籍軍(米軍を中心とした)の登場であるが、現実的には(1)世界の石油の供給は崩れていない(2)外国人の身体に影響(傷害)を受けてい

ない(3)権益(米を中心とした各国の)も崩れていない...なかでの全面的展開なのである。

③歴史をさかのぼると、八二年四月のレーガンによるプロジェクト・デモクラシー(戦略概念)は、ソ連への「民主主義」の名をもって思想と文化への宣戦布告をし、東欧諸国の解体とストロングUSAをセットして攻撃が開始された。

対ソを敵とする戦略は、米ソ双方がベトナムとアフガンによって大変な財政危機に瀕するに及んで(アジアに敗れて)ペレストロイカを含めて、「冷戦」体制を崩壊させるマルチ体制へとなるのである。

地球を北極を中心として見たならば、アメリカの戦略はソ連を包囲する形で輪の中へと矢を向けていた。ところがそのアメリカの包囲網とは別のところ次々と世界体制が崩れていくのである。

④そして「冷戦」構造の崩壊の中で、全世界的に民衆主体の民主主義が大

フガンによって大変な財政危機に瀕するに及んで(アジアに敗れて)ペレストロイカを含めて、「冷戦」体制を崩壊させるマルチ体制へとなるのである。

☆「自主の主とは王の上に杭(一)をうつ(一)打つ・撃つ・討つ」と書く!

経済危機にあえぐアメリカは、その経済の回復をハイテクと農産物と位置づけ、「ソ連脅威論」の消滅とともに「主敵」を日本としヘゲモニーを握ることにかけてきている。

ここには労働運動そのものが存在しない。我々は、国権をのりこえつつある民権の動きに注目しなければならぬ。民主主義とは闘ってかちとるものである。

自主・自立の闘いへメッセージを發出しなければならぬ!